

図1 ポストドクター等の博士課程修了からの経過年数毎の人数と進路(2015年度)

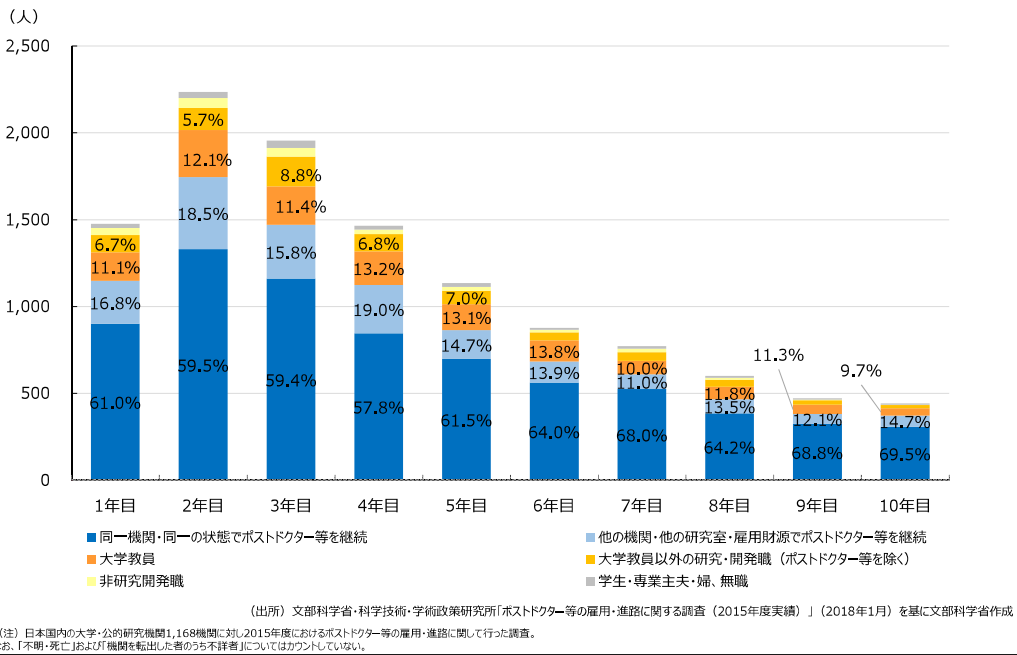


図2 博士課程修了後1.5年と3.5年でのアカデミアにおける職階の変化

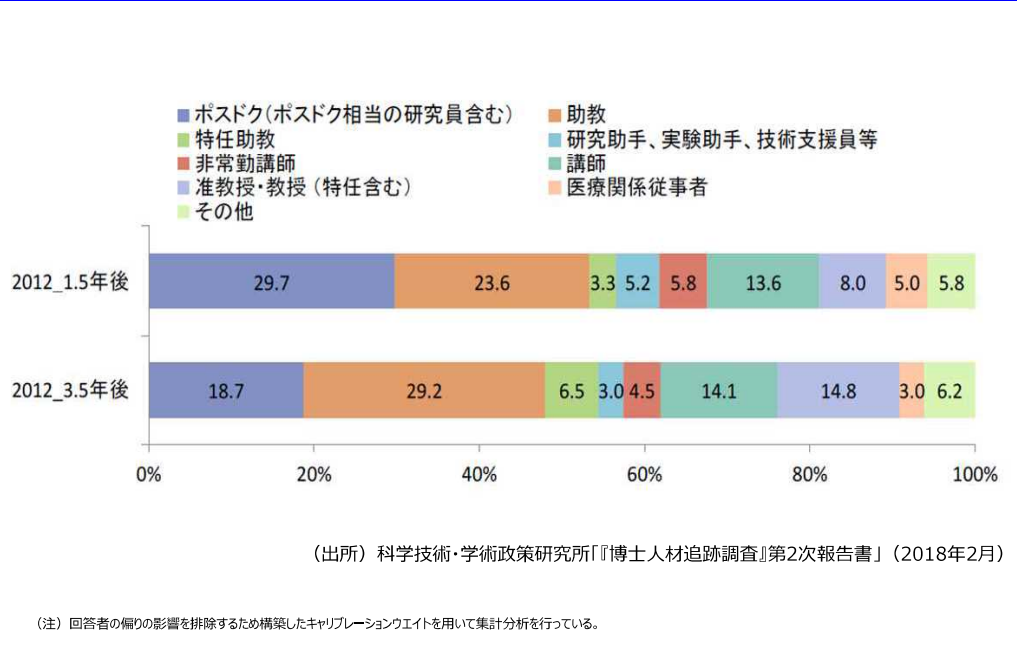


図3 大学本務教員数及び若手割合

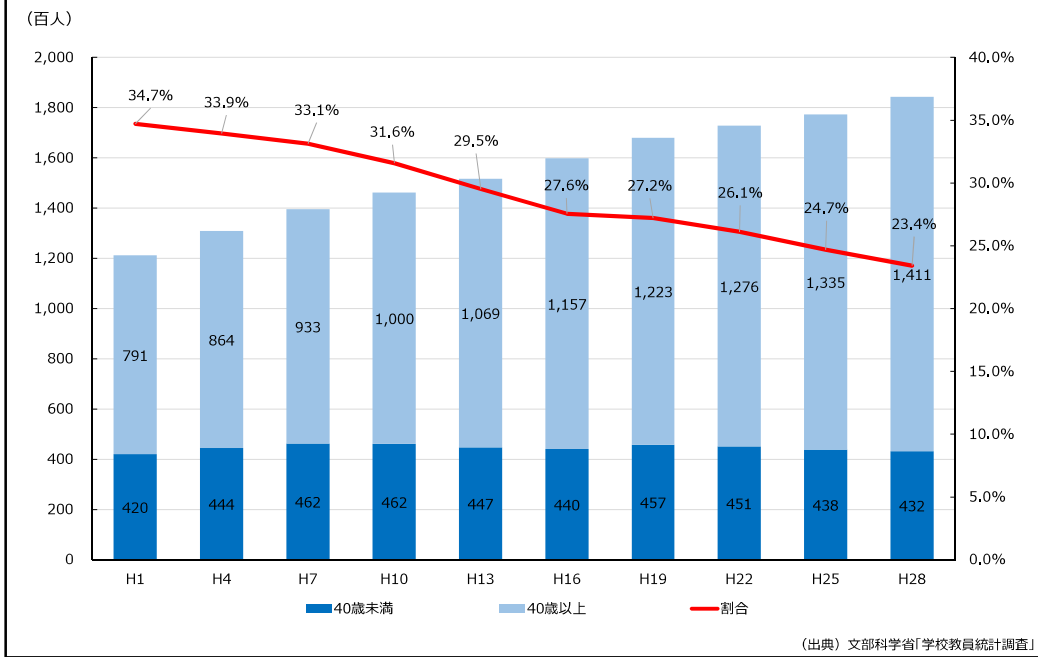


図4 大学採用教員数及び若手割合

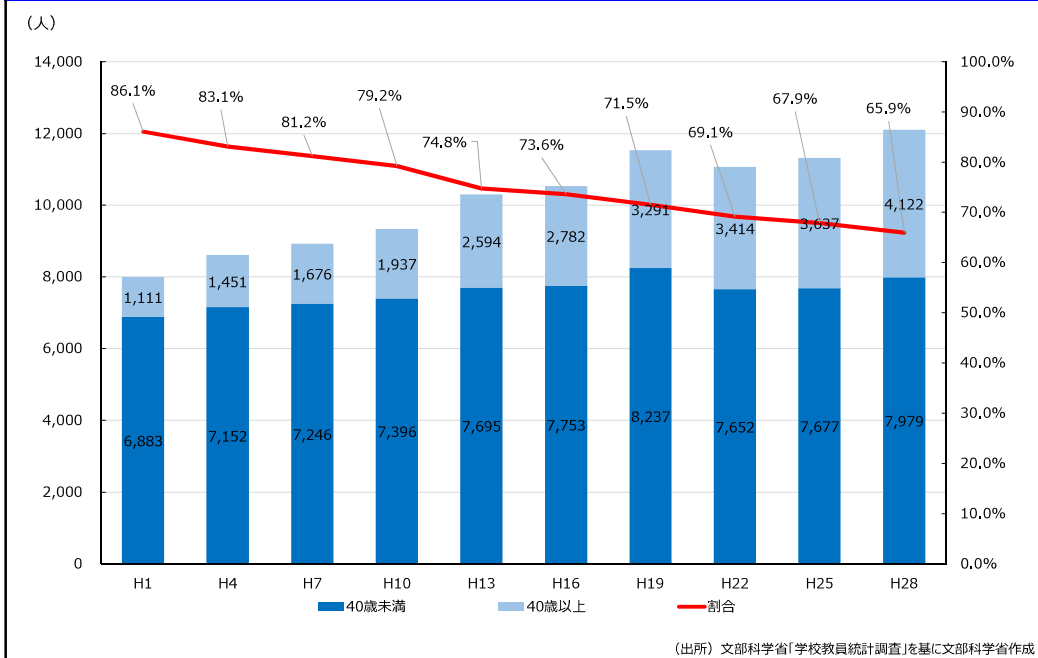
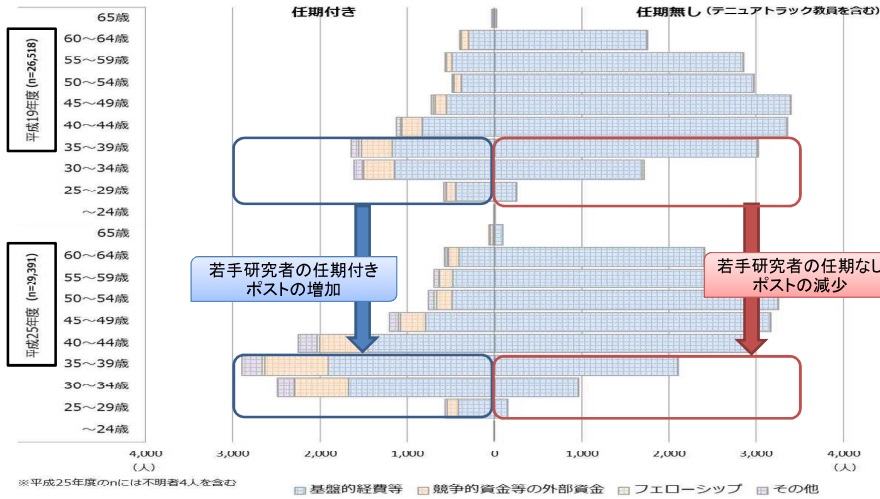


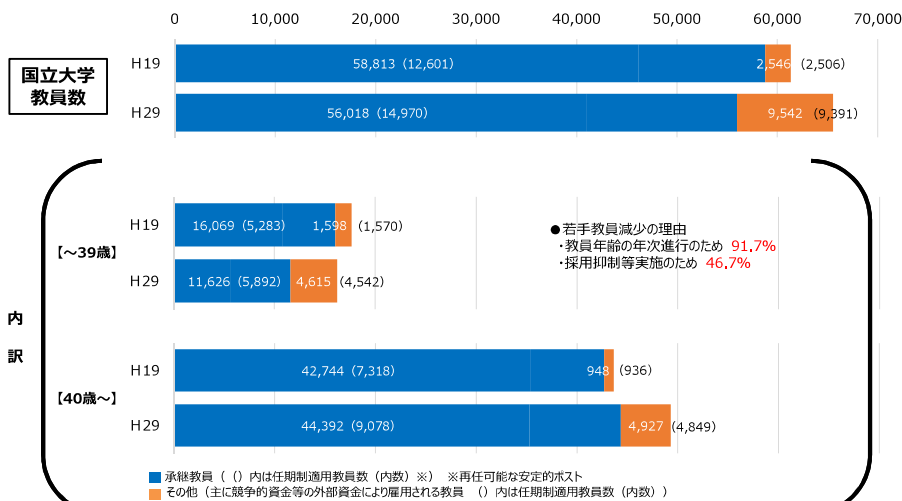
図5 大学教員の雇用状況(研究大学(RU11))

○ 研究大学 (RU11) においては、任期なし教員ポストのシニア化、若手教員の任期なしポストの減少・任期付ポストの増加が顕著。



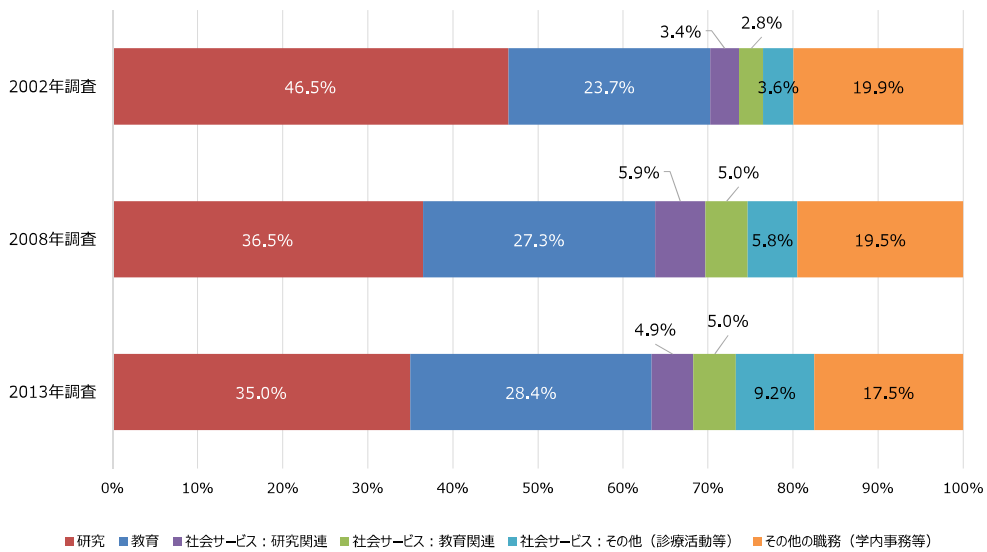
※学術研究懇談会 (RU11) を構成する11大学における大学教員の雇用状況に関する状況を調査したもの。  
 (出所)「大学教員の雇用状況に関する調査」(2015年9月 文部科学省、科学技術・学術政策研究所)

図6 国立大学における教員の雇用状況



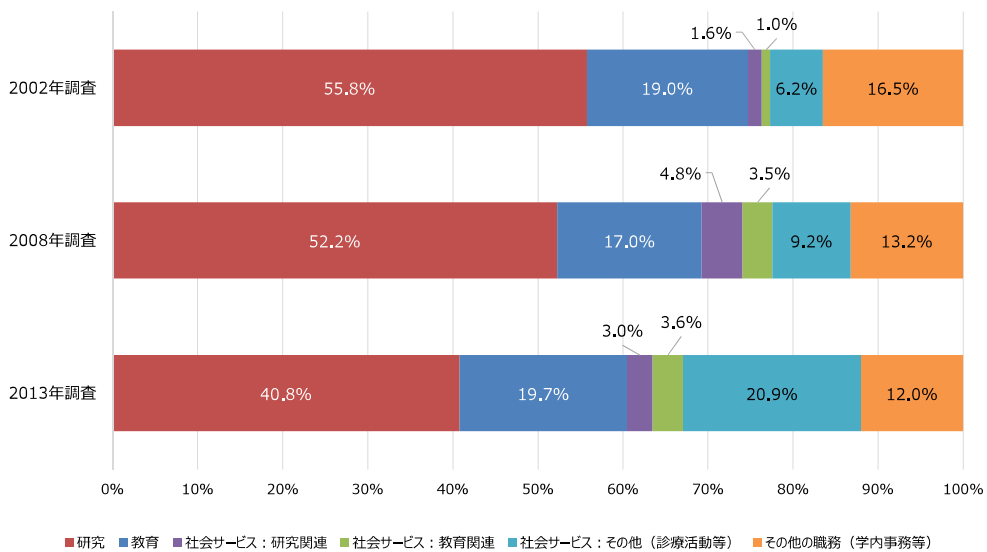
(出典) 文部科学省調べ

図7 大学等教員の職務活動時間割合



(出所) 科学技術・学術政策研究所「大学等教員の職務活動の変化—『大学等におけるフルタイム換算データに関する調査』による2002年、2008年、2013年調査の3時点比較—」（2015年4月）  
 (注1) 2002年と2008年と2013年の調査では、回答者のサンプリング方法が異なる。  
 (注2) 研究者個人の研究時間を国全体で足し合わせたフルタイム換算の研究者数で見ると、日本は実数でも人口規模比でも主要先進国並みであり、日本全体としての研究時間が低いわけではない。

図8 助教の職務活動時間割合



(出所) 科学技術・学術政策研究所「大学等教員の職務活動の変化—『大学等におけるフルタイム換算データに関する調査』による2002年、2008年、2013年調査の3時点比較—」（2015年4月）  
 (注1) 2002年と2008年と2013年の調査では、回答者のサンプリング方法が異なる。  
 (注2) 研究者個人の研究時間を国全体で足し合わせたフルタイム換算の研究者数で見ると、日本は実数でも人口規模比でも主要先進国並みであり、日本全体としての研究時間が低いわけではない。

図9 論文数(分数カウント)の推移

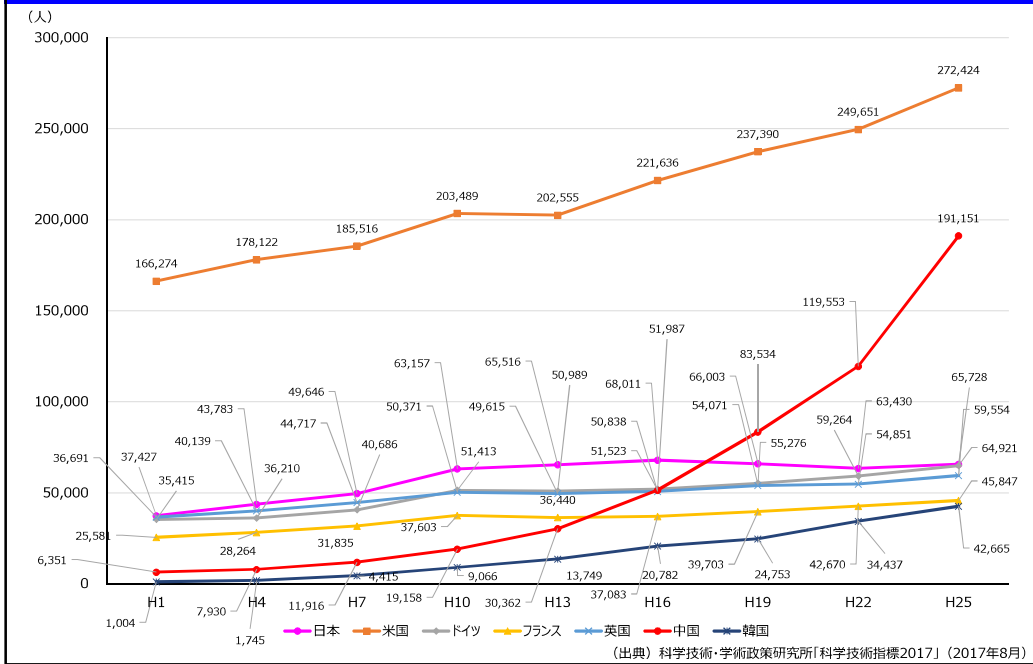


図10 Top10%補正論文数(分数カウント)の推移

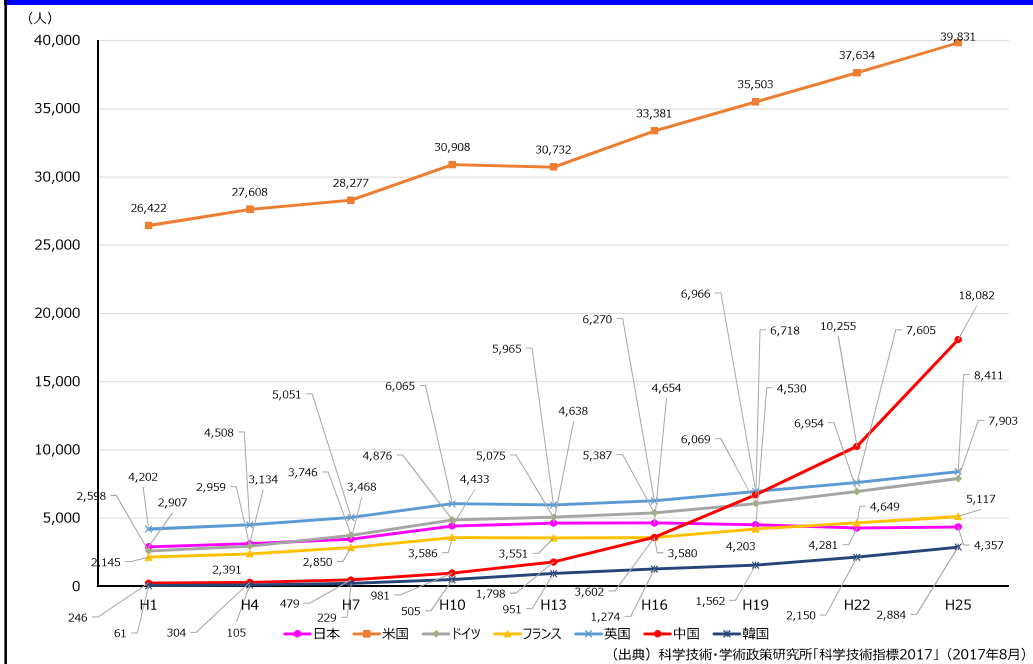


図11 国内論文数・Top10%補正論文数(大学等部門・分数カウント)の推移

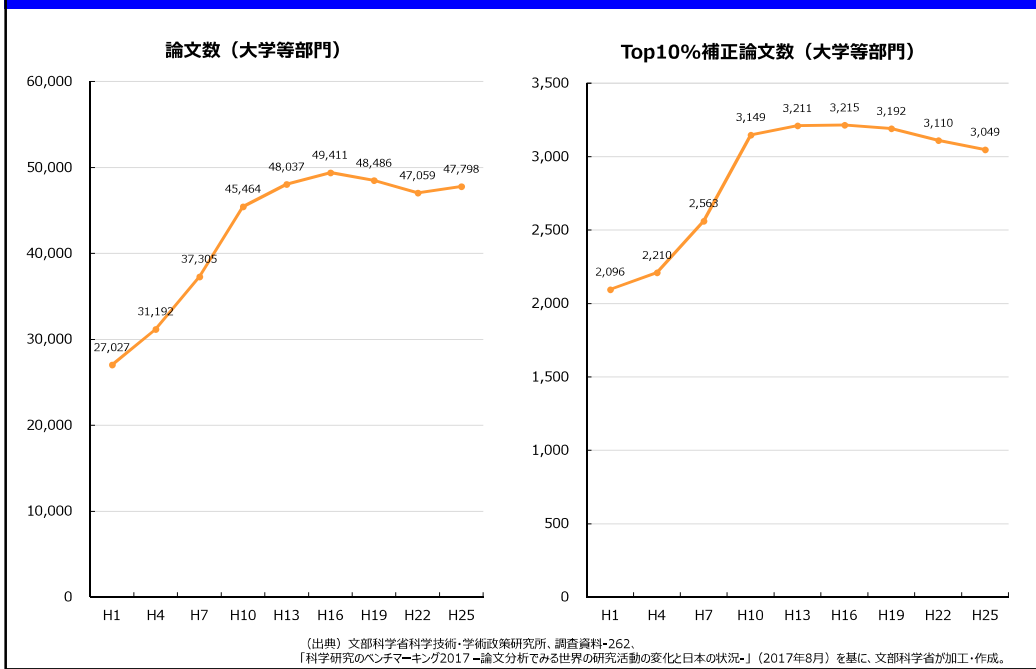


図12 博士課程入学者(在籍者)数の推移

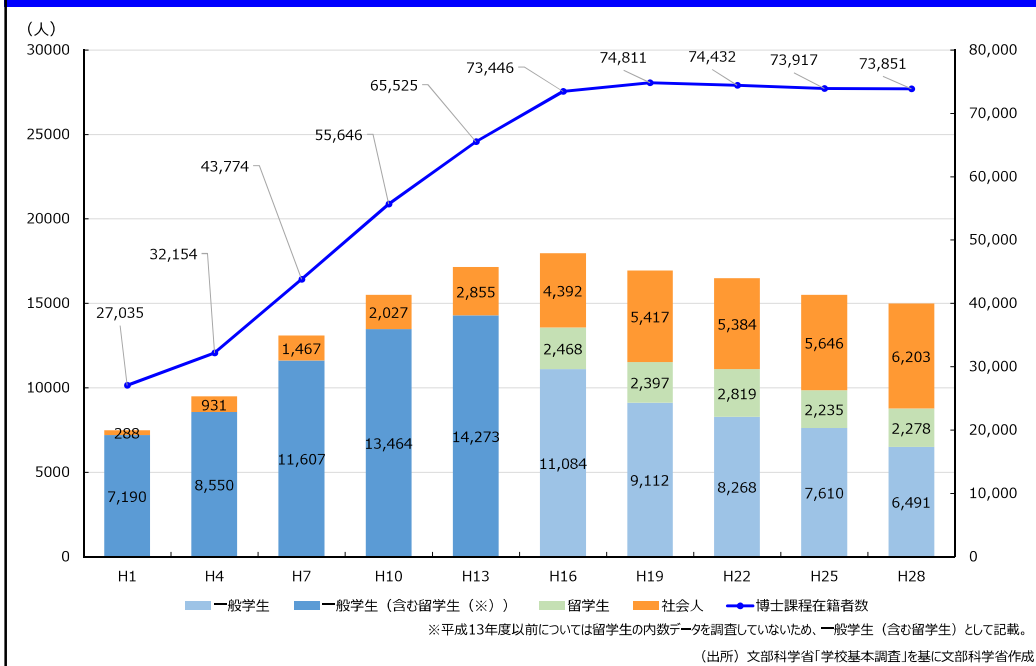
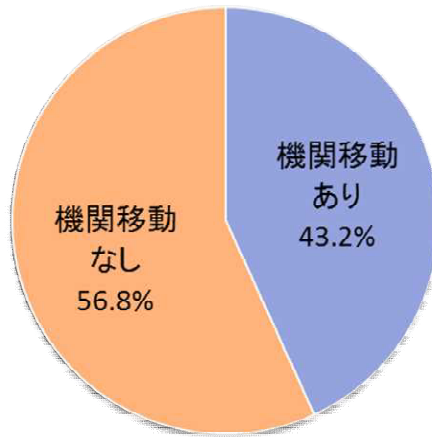
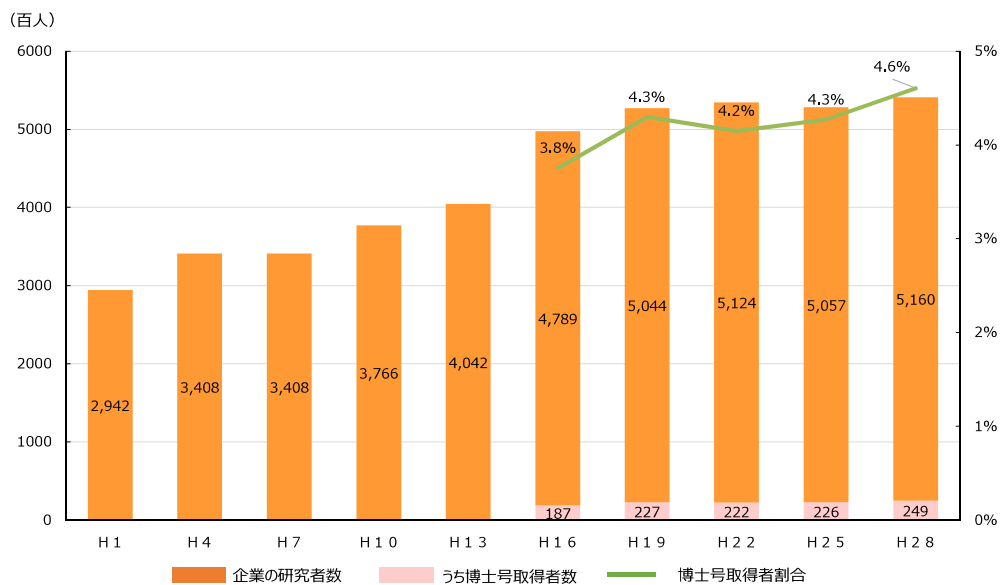


図13 社会人学生の博士課程入学前と修了後0.5年後の雇用先機関の移動状況



(出所) 科学技術・学術政策研究所「『博士人材追跡調査』第2次報告書」(2018年2月)

図14 企業の研究者数及び博士号取得者割合



(出所) 総務省「科学技術研究調査報告」を基に文部科学省作成

注：すべてフルカウント換算していない。平成13年以前と平成16年以降は研究者の定義が異なるため、単純比較できない（平成13年以前は「研究を主とする者」の人数であり、平成16年以降は「研究を主とする者」と「研究を兼務する者」の人数）。

図15 女性研究者数の推移

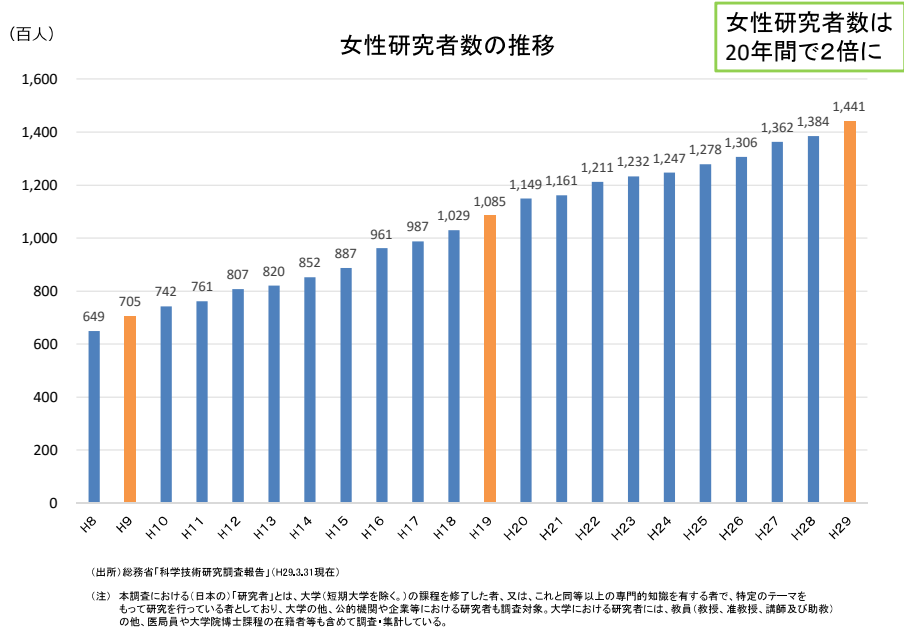


図16 女性研究者割合の推移と国際比較

研究者総数に占める女性研究者割合も20年間で1.6倍に増加しているが、諸外国と比較してなお低い水準。

